

「X」26年3月6日(木) 十王堂橋・光照寺・成福寺・多門神・常楽寺

(集合場所；横須賀線北鎌倉駅表改札口9時50分厳守同時出発)

- ① 行程；北鎌倉駅→十王堂橋→市場跡→八幡神社→光照寺→小袋谷→でんすけ山
刑場跡→巖島神社→成福寺→多門院・熊野神社→常楽寺→離山地蔵→市場跡→
大船駅。
- ② 食事場所；大船駅前商店街「いろは茶屋」日替わり定食700円・焼魚定食700
円野菜炒め定食700円。

電話；0467-44-4883

- 1・十王堂橋(山の内川→柏尾川→境川・鎌倉十橋石橋・昔は橋のそばに閻魔など
十王を祀った十王堂があった)
- 2・市場跡(台のなかに市場地名北鎌倉から大船に向かって700m行った付近・毎
月5日と7日定期市、物品交換、紅花売買、武将の駿馬シュン市が立っていた)
- 3・光照寺(小坂村郵便局交差点左折・山門右側子育地蔵・山門キリスト教十字紋
有る、くるす門、明治期廃寺東溪院から移設・本堂にキリ前通り直ぐ左折・時宗・
西台山・本尊阿弥陀如来像胎内正長2年1429修理銘、胎内、両脇観音、勢至鎌
倉期彫刻シタン使用燭台2基・「おしゃぶき」と呼ぶ小石祠門左側つげの木下、
咳に功德・シャクナゲ・ハギ・ユキヤナギ・レンギョウ等四季折々の花を楽しめ
る寺で別名シャクナゲ寺)

一遍聖人の鎌倉入りを執権北条時宗の警護の武士に阻まれ、野宿した地に建立
した寺。くるす門は隠れキリシタンを受け入れていた伝承を物語る。弘安2~3年(1279
~80)頃、一向上人(他力本願説、極楽に行くには自力では難しく阿弥陀仏にす
がる他ない)開山と伝う。
- 4・八幡神社(小八幡神社=小八幡マフマンさま・市場鎮守・祭神応神天皇・神明社、
春日社合祀、・境内社稲荷社・例祭7月22日・神事芸能鎌倉神楽・庚申塔・神
徳家内安全)

享保20年(1735)領主別所氏(元禄11年1698徳川綱吉が領主に任命)石

清水（イシヅ）八幡宮勧請、村人の守護神と祀ったのが始まりと言う。

5・小袋谷（コフクロヤ・巨福礼，小福礼とも書いた）

昔は交通の要所で、小田原北条支配下で、箱根権現領地にもなったこともあったと言う。

6・でんすけ山刑場跡（大船から進行小袋谷踏切手前左側にあったと伝う。昭和 23 年土地造成多数人骨や石像出土、平池墓地移され供養）

7・巖島神社（亀甲山、亀甲羅山所在・小袋谷鎮守・祭神応神天皇・境内社稻荷社、吾妻社祭神弟橘姫元現小袋谷公会堂場所、弁天社祭神市杵姫嶋姫・社宝石造庚申塔石段右寛文 10 年 1670 銘市文三猿目、口、耳無くてはならない大切なものだが、悪いものを見たり、悪い事を言ったり、他人の言った事を聞いて迷ったり怒ったりしない様注意しなさいと三猿は教えている・例祭 7 月 22 日以降日曜・神事芸能鎌倉神楽、子供神輿渡御・神徳家内安全）

かつては、弁財天成福寺南側にあった。周辺の吾妻、八幡社と一年に一社ずつ祭祀を行っていたが、関東大震災で倒壊、昭和初め 3 社合祀、巖島神社となった。現在地は元八幡社（祭神応神天皇・成副寺鬼門除け神社）あった場所。

7・成福寺（天台宗→浄土真宗・亀甲山・本尊阿弥陀如来像・親鸞・蓮如上人像・聖徳太子像本尊隣部屋・虚空蔵菩薩木象坐像金色 1m 位胎内仏像子犬彫物等供養、庫裏室町期作・山門四脚門元山崎館にあった・本堂裏墓地にビヤクシン古木・裏山に「亀の巖」沙門院泰次ヤヅク入道修業処北条泰時の子幼名泰次）

山門は江戸初期、山崎領主奥平氏の娘で崇高院（ウツクワイン）が住んでいて、此の寺で教えを受けたとき、屏風など宝物と一緒に自分の家の門を寄付して此処に建てたと伝う。貞永元年（1232）僧成仏（泰次）が開いた寺。新田義貞が鎌倉攻め時と戦国時代終わり頃、後北条氏迫害された時の 2 度災害に遭っている。明治時代時は村役場になって、本土の一部は会議場も兼ねたと伝う。

8・多門院（真言宗大覚寺派・天衛山福寿寺・本尊毘沙門天・多聞天仏の四方を守る神将、岡野十一面観音足利期作・寺宝後白河上皇院宣イゼン寿永 3 年筆他古文書多数・木像牛頭天王鎌倉期作昔山の内天王様祭神・弘法大師像・聖観音

像・地蔵像・不動明王像・薬師如来像等安置・天正 9 年 1,581 銘高台付椀鎌倉国宝館)

文明年間(1469~87)頃創建と言う。甘糟氏開基。開山は南介。天正 7 年野神社勧請。正徳 2 年(1712)銘六地蔵尊。

- 熊野神社(大船鎮守・大和尊命・境内社金毘羅者・例祭 9 月 24 日近日曜・神事芸能鎌倉神楽、子供神輿渡御・神徳家内安全)

甘糟長俊が束帯姿木像を勧請して祀ったと伝う。明治神仏分離迄多門院別当寺。甘糟氏は相模平氏出身一族。

- 9・常楽寺(臨済宗建長寺派・栗船リケン山元禄元年 1688 木菴性搭書・本尊阿弥陀三尊、釈迦如来、文殊菩薩伝毘首ヒシかつま作市文・寺宝銅鐘宝治 2 年作重文・蘭溪道隆像安置・文殊祭祈祷会 1 月 25 日・文殊堂・北条泰時墓)

嘉禎 3 年(カチイ・1237)三代執権北条泰時が義母の墓のあったそばに、供養の為に建てた栗船(アワネ)御堂がはじまり。常楽寺の寺名は泰時没後、その法名(常楽院殿)をとってつけられた。建長寺創建の蘭溪道隆(大覚禅師)が、建長寺創建、建長 5 年(1253)まで此処に棲んで居たと伝う。

- 10・離山(ハレヤマ・大正期セメント用泥岩・大船の田を埋め田園都市用埋め立てにと全部崩された)・離山富士見地蔵(伝目のお医者さん)・旧鎌倉中の道

離山バス停より少し大船よりに以前は、三つの離れた芝山があった。中央に長山・北方に腰山・南方に地蔵山があり山足が連なっていたので、此の三つを離山呼んだと言う。元弘 3 年(1333)新田義貞が、鎌倉攻めの時、晴山に武将を集め、攻め入る相談をしたと言う。

以前地蔵山にあった離山富士見地蔵が、昔の鎌倉街道の一つで戸塚道の、離山に入る辺りの東川に祭られて居る。

- 11・市場跡(戦後の市場跡)今の繁盛している商店街の中心

以上